

実態把握と目標設定	• 学部	高
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<p>■知的障害、□自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ 広汎性発達障害 高機能自閉症 ）</p>
	• 対象児童生徒の課題	• 他人と協力すること
	• 自立活動の目標	<p>• 他人と協力することの喜びを感じる。 • クラスメイトに興味を持つ。</p>
	• 上記目標に対応する区分	<p>健康の保持      心理的な安定      <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">人間関係の形成</span> 環境の把握      身体の動き      コミュニケーション</p>
	• 支援の手立て	<p>• クラス活動で協力できる作業があれば積極的に参加することを促す。また、協力することへの意欲をつけるために、協力したことを称賛する。 • クラスメイトの名前を覚えるために、日直の名前を呼ぶ活動では、読む箇所を示すなど、スムーズに発語ができるように支援する。</p>
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	• 食缶を運ぶことに積極的に協力するようになった。友だちの名前を呼ぶこともスムーズになった。
	<p>• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等</p>	<p>• 協力したことに「ありがとう」という言葉をかけると、協力することの喜びを感じている様子が見られた。 • クラスでのお手伝いを促す（食缶運びの協力）</p>
グループ討議	<p><u>全校研究②学年・クラスで検討</u> • 参考になった支援方法等</p>	• 昼休みなどを活用して、クラスメイトと一緒に遊ぶ。（身体を動かす）

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の生徒ではあるが、自らの意思でその生徒に質問をすることが増えた。質問された生徒も優しく対応しているため本人は喜んでいる様子があった。</li> <li>・給食の配膳前に名前の札を置くことを頼むと、その日以来責任をもって名札置きの仕事に取り組む様子が見られた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力してくれたことに対して「ありがとう」と言葉を伝えることは、協力する姿勢を伸ばす大事な言葉がけであると感じた。クラス活動で行える「お手伝い」の幅を広げたい。</li> </ul>
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度も継続してクラスメイトとの交流を促す。また、交流が生まれやすい環境を設定することを意識する。</li> <li>・食缶の運搬だけでなく、教室の掃除や行事等の活動でも積極的に協力するよう促す。</li> </ul>

実態把握と目標設定	• 学部	高
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	□知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	課題： • 自身が不得意とする課題などに向き合う力。 • 継続して課題に取り組み、やり遂げること。 • 服装や提出物などの管理をすること。
	• 自立活動の目標	自身の課題に対して行動を起こせる力をつける。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持      心理的な安定 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">人間関係の形成</span> 環境の把握      身体の動き      コミュニケーション
	• 支援の手立て	現状の振り返りを行ったり、教員が言葉かけを行ったりしながら課題に対峙するように促す。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	教員からの言葉かけがあっても、課題に取り組むまでに時間を要していたが、継続して教員から言葉かけを行うことで、取り組むまでにかかる時間を少しずつ減らし、自分から取り組もうとすることも増えてきた
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	• 継続的な言葉かけや目的意識の確認 • 担任間や授業主担者間、保護者との連携
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> • 参考になった支援方法等	• 成果がわかりやすい目標設定をするのがよいのでは。 • 頑張った結果がどうよくなるのか、自身がしたい何かをするためにしたくない課題に向き合うように促すなどを伝える。

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちの切り替えは少し早くなった。</li> <li>・スモールステップで成長する変化も見られたが、継続した登校が難しく、休みが続くと以前までできていた課題ができなくなることがあった。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的な言葉かけ等を行っていたが、無理を察知して距離を取り、自己防衛が働きやすい傾向にある。</li> <li>・主体性となるモチベーションとなることや現実と向き合うことが必要。</li> </ul>
まとめ	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理的に負荷のある場面でも、前向きに取り組める力を養う。</li> </ul>

実態把握と目標設定	• 学部	高
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<input type="checkbox"/> 知的障害、 <input type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input checked="" type="checkbox"/> その他（両上肢、体幹機能障害）
	• 対象児童生徒の課題	課題：自分から発信する力を身につける 1年時は環境の変化もあり、最初の方は緊張をされていて笑顔も少なく、自ら人との関わりを持とうとせずに座っていることが多かった。環境にも慣れ、親しい友人や教員との関わりを持ち、気持ちや困りごとを伝えられることが課題である。
	• 自立活動の目標	朝の用意や更衣、給食時など困った時に自分から助けを求めることや、課題が終わった時に自分から担当教員に伝えることができる。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持          心理的な安定 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">人間関係の形成</span> 環境の把握          身体の動き <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">コミュニケーション</span>
	• 支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の準備や更衣、給食時など教員が気かけながら、困っている時には「何か困っていない？」などの言葉かけを行いながら、自ら伝えやすい環境を作る。</li> <li>本人が発信するまで待つ。</li> </ul>
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	様子：給食を食へ終えた後には、手を挙げて教員に伝えることができた。 課題：今後は手を挙げるだけでなく、その時に「先生」と声を出し教員を呼ぶことができるようになるとうい。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	成果：生徒との関係を築き本人から話しやすい環境（近くに寄り添う）を整えることで、本人から様々な話をする機会が増えた。 課題：教員が必ず横にいる環境があるため、自分から発信するタイミングがない。 実践：給食時や朝の会の前には少し距離をとり、本人が発信しやすい場面を設定する。

グループ討議	<p>全校研究②学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参考になった支援方法等</li> </ul>	<p>友だちや教員との交流を増やしていく。(トランプなど)友だちと協力できる活動を行っていく。</p> <p>教員だけでなく友だちに頼む場面も増やしていく。</p> <p>SSTを通して頼み事をする練習をする。←実際に教員が行い生徒に見せる。</p>
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<p>様子：給食後には、教員だけではなく、近くにいる友だちにも声をかけて食器を片付けるなどの助けを求める場面が見られた。</p> <p>大きな声で言うまでこちらが反応しないときには、大きな声で「先生！」と呼ぶことができた。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員自身の成果や課題</li> <li>効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手に聞こえる声で言うまでは、反応しないようにした。こちらから手助けをしてしまいそうになるが、本人から助けを求めることができるまで、待つことが大切だった。</li> <li>教員だけではなく、クラスメイトにも助けを求めることができるような雰囲気づくりや言葉かけを行うことが大切だった。</li> </ul>
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>困った時に自ら助けを求めることができる。</li> <li>自らコミュニケーションに参加できる友だちや教員を増やしていく。</li> </ul>

実態把握と目標設定	• 学部	高
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<p>■知的障害、□自閉症、□LD(学習障害)、□ADHD(注意欠陥・多動性障害)、</p> <p>□情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、</p> <p>□その他( )</p>
	• 対象児童生徒の課題	<p>課題：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•ある程度の会話は成立するが、自分の言いたいことだけを言う傾向にある。また、自分のことを名前で呼んだり、会話の中で「〇〇さあー」と言ったりして目上の人と話をするときのマナーが身につけていない。</li> <li>•友だちに対して嫌がるようなことを言うことがある。</li> </ul>
	• 自立活動の目標	適切な言葉遣いで挨拶や会話を行うことができる。
	• 上記目標に対応する区分	<p>健康の保持          心理的な安定          <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">人間関係の形成</span></p> <p>環境の把握          身体の動き          コミュニケーション</p>
	• 支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 普段の挨拶や会話のなかで、望ましい言い方を伝えて、適切な言葉遣いを覚えられるようにする。</li> <li>• 適切な言葉遣いでなかった際は、その都度言い直しをするように促す。</li> </ul>
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分から挨拶をするようになってきた。</li> <li>• 「〇〇さあー」と言いかけて自分から言い直すようになってきた。</li> <li>• 相手に質問したことと自分の言いたいことを結びつけることについてはまだ難しい。</li> <li>• 友だちに対する発言は、自分でも気づいている。</li> </ul>
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「〇〇さー」と言ったときに会話の途中でも途中で指摘し、「さー」を使わずに伝える言い方を一緒に考えた。</li> <li>• 反省するも友だちに暴言を言って、謝罪することは何度かあった。</li> </ul>

グループ討議	<p>全校研究②学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参考になった支援方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちとのかかわりについて一日の振り返りを行う。</li> <li>・暴言を吐く心情を聞き取る。</li> <li>・会話の途中でも気になる発言には注意を向けさせる。</li> </ul>
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言が適切かどうか気にするようになってきた。「〇〇さあ～」ということは減ってきたが、意識が抜けるとまだ言うことがある。</li> <li>・友だちに対する暴言は減ってきた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ教員と一緒に時間を取り、本人の発言で気になるところは、その都度助言をするようにした。助言をされると「言葉」としては覚えるが、意味の理解には及ばないことを実感せざるを得なかった。今後も粘り強くかかわりを持つことが必要と思われる。</li> <li>・友だちに対する不適切な発言および接触を避けるために、登下校時の更衣については、教室カーテン内で単独で行うようにした。</li> </ul>
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敬語など、その場に合った適切な言葉使いができる。</li> <li>・心理的な距離感を適切に保って人とかかわることができる。</li> </ul>

実態把握と目標設定	• 学部	高
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<p>■知的障害、□自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、</p> <p>□情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、</p> <p>□その他（ ）</p>
	• 対象児童生徒の課題	<p>課題：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 気持ちの切り替えが難しい</li> <li>• 他者との距離感の理解</li> </ul>
	• 自立活動の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 他者に自分の気持ちを伝える。</li> </ul>
	• 上記目標に対応する区分	<p>健康の保持      <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">心理的な安定</span>      <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">人間関係の形成</span></p> <p>環境の把握      身体の動き      コミュニケーション</p>
	• 支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 伝わっていない際は指摘し、伝わりやすい文言を一緒に考える。</li> </ul>
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 課題に対して、向き合う力が必要。</li> <li>• 「〇〇がしたかった、出来なかった」ことが原因で気持ちが乱れることが多かった。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 教員自身の成果や課題</li> <li>• 効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 時間をかけて、話を聞くことが大切。</li> <li>• パニックになった際には、落ち着ける場所を用意し、情緒が安定した状態で指導を行った。</li> </ul>
グループ討議	<p><u>全校研究②学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 参考になった支援方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 事前に問題が起きないように、環境を整える。</li> </ul>

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一度、別室指導を行ったことが、本人に響いたようで、比較的落ち着いて過ごしている。</li> <li>・距離間は近い時が見受けられる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人がパニックになった際に、落ち着いた空間で長い時間かけて話をする事で、理解に繋がったと思う。</li> </ul>
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の人だけでなく、誰とでも距離感を保ち生活できるようにする。</li> </ul>

実態把握と目標設定	• 学部	高
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<input type="checkbox"/> 知的障害、 <input type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 精神発達遅滞 ）
	• 対象児童生徒の課題	課題：YES、NO や自分の気持ちや考えていることがスムーズに発信できない。素直に表現することが難しい。
	• 自立活動の目標	自分の気持ちを素直に伝えることができる。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持                      心理的な安定 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">人間関係の形成</span> 環境の把握                      身体の動き <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">コミュニケーション</span>
	• 支援の手立て	発信ができるまで待ち、話を始めるきっかけになるようなワードをヒントとして示す。また素直に表現できたときには褒めてなるべく抵抗を取り除く。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	これまではこちらのワードヒントが出るまで待ち「じゃあそれかな」というようなことが多々見られたが、自らの言葉で表現できたこと(マイナスな表現も含め)を褒めることで少しずつではあるが抵抗が薄れてきているように感じる。発信までの時間も少しずつ短くなってきた。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	マイナスな表現(疲れた、しんどかった、いや、めんどくさい)が続いてきているため、できるだけ良かったところなどを発信できるよう問いかけを変えるなど工夫をしていきたい。
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> • 参考になった支援方法等	引き続き本人の発信を待ちながら、伝えられたときには褒めることを繰り返していく。友だちと交流する機会を増やし、自分の意見を伝える環境を増やす。帰りの会などで一日の振り返りができたときには肯定し抵抗感を薄めていく。

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<p>2学期に入りマイナス表現が出た際には、問いかけを「頑張れこと」や「難しかったこと」「良かったこと」など質問を重ねることで少しずつ自分から意識して表現できるようになってきた。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<p>発信する言葉の引き出しがあるとみられていたが、そうではないことが分かってきたことで、問いかけの仕方を少し変えてみると新しい表現方法を習得し、自ら発信できるようになってきたと感じている。課題としては、発信までに考え込む時間が長く、黙ったままの時間ができてしまうことである。</p>
まとめ	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<p>表現には豊かさが出てきており、本人の抵抗感も薄まりつつあるため継続して同様の支援をうけながら発信力をつけていくことである。また、沈黙の時間についても、「時間をください」「最後に言います」など新たな表現方法や伝える方法を習得してほしい。</p>

実態把握と目標設定	• 学部	高
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	□知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ 広汎性発達障害 高機能自閉症 ）
	• 対象児童生徒の課題	自ら挨拶をすること。
	• 自立活動の目標	朝の挨拶に自ら取り組むことができる。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持          心理的な安定          人間関係の形成 環境の把握          身体の動き          コミュニケーション
	• 支援の手立て	挨拶が大切な理由を伝え、朝の挨拶に取り組むことができるように促す。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	「なぜ」あいさつをすることが必要なのか口頭で繰り返し伝えることで、登校時にドアを自らあけて「おはようございます」と言うことができるようになった。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	今回は口頭で伝えるのみで理解し、実践につなげることができた。課題は、本人にうまく伝わらなかった際にどのような支援が必要なのかを探ることである。
グループ討議	全校研究②学年・クラスで検討 • 参考になった支援方法等	口頭で伝えても実際に実践することを忘れてしまう生徒の場合は、視覚的な支援として「挨拶」に関するイラストや文字を掲示する支援方法を教えていただいた。
2学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化	朝の挨拶に関しては、安定して取り組むことができたが、帰りの挨拶や入室時の一言などに取り組むことは難しかった。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員自身の成果や課題</li> <li>・ 効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<p>朝の挨拶に安定して取り組むことができたのは1つの成果だったが、その他に取り組むことができなかったのは課題である。朝の挨拶はタイミング的に取り組みやすかったがその他はむずかしかった。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめ</p>	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<p>あいさつの必要性や大切さを今年度は伝えることができたので、次年度はその挨拶の幅を広げることができればと思う。</p>

実態把握と目標設定	• 学部	高					
	• 学年						
	• 対象児童生徒の障害	<p>□知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、■ADHD（注意欠陥・多動性障害）、</p> <p>□情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、</p> <p>□その他（ 広汎性発達障害 高機能自閉症 ）</p>					
	• 対象児童生徒の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 友だちに対してちょっかいをかけたり、過度な接触をしたりすることがある。また、他者に対して厳しく、暴言を吐くことがあるが、そのような行動が不適切度だという自覚がない。</li> <li>• 時と場に応じた適切な行動をしようとする意識が乏しく、授業中に私語をしたり、登下校のバスの中でも大声で話したりする。</li> <li>• 行動に対して注意を受けるとその場は聞き入れるが、すぐに同じようなことを繰り返してしまう。</li> <li>• 「困っている人がいたら助けたい、皆が楽しく安心安全で学校生活を送れるようにしたい」という自身の理想と行動が大きくかけ離れている。</li> </ul>					
	• 自立活動の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 場に応じた発言や行動を心がけることができる。</li> </ul>					
	• 上記目標に対応する区分	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">健康の保持</td> <td style="width: 33%;">心理的な安定</td> <td style="width: 33%; border: 1px solid black;">人間関係の形成</td> </tr> <tr> <td>環境の把握</td> <td>身体の動き</td> <td>コミュニケーション</td> </tr> </table>	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成					
環境の把握	身体の動き	コミュニケーション					
• 支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>• どのような人間になりたいか、そのためにどのような行動が必要かなど、具体的な行動目標を一緒に考える。</li> <li>• 自分の行動に自覚をもち、行動目標を意識することができるよう振り返りシートを用いて、授業やバス内での態度を振り返られるようにする。また、担当教員や友だちへの聞き取りを行い、他者の意見を聞けるようにする。</li> <li>• 都度、振り返りを行い、望ましい行動に対しては良い評価をして成功体験を積みせることで、その行動が強化できるようにする。また、望ましくない行動に対しては、反省点や理由、これから具体的にどのようにすればよいか考えさせたり、望ましい行動を示したりする。</li> </ul>						

1学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の様子、変化、課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業態度に関しては、これまで同様自分の行動に自覚を持ってず、私語があったり、大きな声で話したりしていることがあった。</li> <li>バス内では、以前のように周りの迷惑を考えず大声で話すことが減ってきており、意識はしている様子があった。</li> <li>ワークシートや振り返りの時間を通して、目標を確認する中で、意識して行動できる場面もでてきた。</li> <li>保護者からは、トラブルがあった際に、自分の行動を省みることができるようになってきたとのコメントがあった。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員自身の成果や課題</li> <li>効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別で振り返る時間が取れず、その日にあった課題に対しての指導ができないことがあった。</li> <li>対象生徒の課題は友だちとの関わりのなかにあるので、(本人の希望に沿って)仲の良い友だちとも課題や目標を共有して、友だち同士で協力して成長し合える関係性を作るようにした。</li> <li>自立活動の授業で、対象生徒が自身の課題に対して目標設定して実践・評価するという事例を扱うことで、他の生徒も自身の課題を見つけて改善のための行動を考えて、実践しようとする姿がみられた。</li> </ul>
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>参考になった支援方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SSTのポイントを押さえて指導する 良い所(能力や長所)を伸ばす。 本人の夢や希望に沿った関わりをする。 一緒に考えながら進める。 できている事とできていない事を客観的に評価する。</li> </ul>
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>以前と変わらず、テンションが上がる場面では、自制できず騒いだり、ふざけたりすることが続いている。</li> <li>時間を意識して行動できるようになってきた。</li> <li>他生徒に対して、言葉がきつくなならない様にしようとする意識はついてきている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員自身の成果や課題</li> <li>効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>下校前に本人と1日を振り返る時間がなく、望ましい考え方や適切な行動を示すことができなかった。</li> <li>生徒の主観で振り返ると至らない点に気づかないので、授業担当者から授業後に評価を伝えることで、言動や態度の改善点を具体的に指導することができた。</li> </ul>
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度の目標については、主体的に自らの課題に気づき、改善できるように行動選択ができるようになる。学校生活や実習を通して様々な経験や学習を積み重ねて、適切な考え方や行動を身につけていくことが望ましいと考える。</li> </ul>

実態把握と目標設定	• 学部	高
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<p>■知的障害、□自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、</p> <p>□情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、</p> <p>□その他（ ）</p>
	• 対象児童生徒の課題	<p>課題：授業態度と挨拶</p> <p>朝、自分から挨拶ができず、眠たそうにしながらポケットに手を突っ込んだまま教室に入ってきていた。また、朝の会や授業でも、机に伏せて寝ることが多く意欲が出にくい学校生活になっていることが課題である。</p>
	• 自立活動の目標	挨拶の必要性や授業への取り組み方の重要性を理解し、行動に移す。
	• 上記目標に対応する区分	<p>健康の保持          心理的な安定          <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">人間関係の形成</span></p> <p>環境の把握          身体の動き          <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">コミュニケーション</span></p>
	• 支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 朝の登校の際に、挨拶や挨拶の態度の言葉がけを行い、個別に時間をとり、挨拶の大事さや挨拶の感じ方を伝える。</li> <li>• 授業態度も寝てしまうことが多いので、体調不良かどうかを確認しながら、保護者とも連携をとり、睡眠時間の確保ができるようにし、本人と個別で話をしていく。</li> </ul>
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 朝はポケットに手をいれたまま教室に入ることはなくなった。声はまだ小さいが、挨拶もできるようになってきた。帰りには、自分から「〇〇先生、さようなら。」と挨拶できるようになった。</li> <li>• 挨拶をしようという意志はみられるようになったが、声が小さいのと、登校後に眠気から机に伏せてしまい、朝の会で姿勢を保てないことが課題である。</li> </ul>
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分がどんな挨拶の仕方をしているのかを、態度で見せて客観的に考えさせ、挨拶や態度の意味を話した。できていないときは、その都度、言葉がけを行った。</li> </ul>

グループ討議	<p>全校研究②学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参考になった支援方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡帳を自分で一日の授業を振り返ることができる様式にする。</li> <li>・キャリアフロンティアコースのファイルなどを担任が確認する際に、個別に話をする機会を設ける。</li> </ul>
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期からキャリアフロンティアコースに入ったこともあり、自覚がめばえ、クラスの活動なども積極的に動くことができるようになった。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアフロンティアコースについての実践内容や実習について個別に話をする時間を設けることにより、本人の将来像をイメージすることができた。座学で、眠ってしまうことは、今後も課題である。</li> <li>・連絡帳を自分で書く様式にすることで、見通しや振り返りができるようになった。</li> </ul>
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続きキャリアフロンティアコースで自覚を持ち、働くイメージをもちながら、学校生活に積極的に取り組むことができるようになる。また、今後も睡眠時間を確保して授業内容に意識をもって取り組むようになることが課題である。</li> </ul>